

審議会等の会議結果報告

1 会議名	平成23年度第5回久居地区地域審議会
2 開催日時	平成24年3月5日(月) 午前9時30分から午前11時05分まで
3 開催場所	久居ふるさと文学館 2階 視聴覚室
4 出席した者の氏名	(久居地区地域審議会委員) 石川裕一、井面三砂、大下幸男、川合治、川原田義之、北村耕一郎、久保和生、小瀬古喜代子、柴田房子、津山峰子、中西正明  (事務局) 久居総合支所長 中村光一、副総合支所長 奥野幸司、 地域支援員 佐藤良克 地域振興課長(兼)久居体育館長 澤井尚、 同課地域支援担当副主幹 岸江一浩、同課地域振興担当副主幹 上野美幸
5 内容	(1) 久居地域の防災について(報告) (2) 地域かがやきプログラムのあり方について(協議) (3) その他
6 公開又は非公開	公開
7 傍聴者の数	1人
8 担当	久居総合支所 地域振興課 地域振興担当 電話 059-255-8819 E-mail 255-8812@city.tsu.lg.jp

・議事の内容

地域振興課長 本日は、申告相談をやっています関係からこちらの会場で開催させていただきました。大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。ただいまから平成23年度第5回久居地区地域審議会を始めさせていただきます。

本審議会の情報公開につきましては、前回同様、委員個人名での掲載とさせていただきますので御了承いただきますようお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、総合支所長から挨拶を申し上げます。

総合支所長 皆さん、おはようございます。本日は大変お足元の悪い中、御出席をいただきまして、ありがとうございます。

本日は、本年度最後の地域審議会となりました。会議の冒頭で大変恐縮ではございますが、これまで御意見、御提言をいただきまして、ありがとうございました。今後も皆様方からいただきました、御意見、御提言等を出来る限り市政に反映するというようなスタンスで取組をさせていただきたいと思っております。今回で任期が終了される委員の方もお見えになる訳でございますが、委員を退いてからも、久居地域発展のために御意見等あれば、お聞かせいただきたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

地域振興課長 それでは、議事に入ってください前に資料の確認をさせていただきたいと思っております。

事前に送らせていただきました資料といたしましては、資料1「予算編成における

3つのポイント」で、現在開会されております市議会3月定例会で上程中の予算案の抜粋資料でございます。次に、資料2「平成24年度地域かがやきプログラム事業（久居総合支所）当初予算内訳書」、資料3としまして、「第4回審議会における発言要旨のまとめ」と意見をまとめていただくための「意見発表シート」を送付させていただいております。なお、大変申し訳ないのですが、事項書の送付を漏らしておりまして、本日置かせていただきました。

次に、本日お配りさせていただきました追加資料は、資料①「久居地域の防災に関する意見について（回答）」、参考資料といたしまして、前回総合計画の今後の進め方で、説明をさせていただきましたが、その時のアンケートで既に締切りは過ぎておりますが、アンケート調査の質問内容の写しを置かせていただきましたので、御参考にしていただきたいと思います。

以上、不足する資料はございませんか？

それでは、事項書に基づきまして会議を進めさせていただきます。石川会長、よろしく願いいたします。

議長

それでは、本審議会の規定により議長を務めさせていただきます。

冒頭支所長のほうから御挨拶がありましたように、第5回平成23年度の最終の審議会であるとともに2年間の任期の最後ということで、私が議長を務めさせていただくのも最後で、進行の御協力をよろしく願います。本日の委員の出席状況ですが、大幡委員、鈴木委員、前川委員、山川委員の4名が欠席で、11名の委員が出席していただいております。

よって、当審議会が成立しておりますことを宣言します。

続きまして本日の会議録の署名委員ですが、順番によりまして、今回は、久保委員と小瀬古委員のお二人に願います。よろしく願います。

## 1 久居地域の防災について（報告）

議長

本日の事項の第1番で、「久居地域の防災について」の報告に移らせていただきます。

それでは事務局のほうから事項1について、説明をお願いいたします。

地域振興課長

それでは、簡単に御説明をさせていただきます。久居地域の防災に関する意見書については、昨年の7月の第1回及び10月に開かせていただきました第2回目の審議会におきまして、委員の皆様の御意見をとりまとめていただき、昨年10月24日付けで意見書を提出させていただきました。前回1月25日の第4回目の審議会におきまして、危機管理部長及び危機管理課長が出席をいたしまして、直接、現況の取組状況にあわせ、回答があったところでございます。その席上で文書回答をする旨、説明がございましたことから、当審議会へ送付されたものでございます。お手元の資料①「久居地域の防災に関する意見について（回答）」ということで、会長様宛に市長名で回答を受けたところでございます。内容につきましては、別紙の太字のゴシック体が、こちらの審議会からの意見及び質問事項でございます。それに続きます明朝体の細い字体の方が、回答でございます。内容につきましては、前回答なり、説明なりを聞いていただいた内容になっておりますので、説明は省略させていただきます。

1箇所訂正をお願いしたいと思います。3ページをお開きいただき、中ほどの「・

携帯電話を利用した市民への情報伝達の充実を図る。」というところの段落の2つ目、このほかの2行目で、「auやソフトバンクについても本年3月から」となっておりますが、3月ですので、「月」の追加をお願いします。当日の回答は、この部分は今後活用できるという意味合いの回答であったと思います。その後、期日ははっきりしてまいりまして、本年3月から活用できるよう手続きを行ったということです。説明については、以上でございます。

議長                    それでは、ただ今の説明に対して御意見はございませんか。

北村委員              「自助、共助、公助」ですが、自助だけが要求されている。共助、公助をどこまで考えているのか。一般的なことしか書いてないと思う。具体的に書くべきではないかと思う。皆には3日分の水とか食料を確保せよと言っているのに、具体的にどこの避難場所とは書いてないので、その当時の自治会長なり責任者が、自分とかが100名いるから何とかせよと言った者勝ちというのが現実です。

支所長                    各避難所にも備蓄品というのを揃えてございます。食料につきましても、県が出しております想定避難者数に基づいて、避難する人数の方々が、3日間過ごせるだけの備蓄品を揃えております。昨年の3.11を受けて、被害が増えておりますので、想定被害者数も今後変わってくると思います。これに向けた増加分を改めて検討しています。今年度当初予算にも備蓄品について予算計上しております。一般的な避難に対する毛布であるとかは、備蓄しておりますので、更に充実していくということです。決して無いということはありません。

北村委員              高茶屋であった訓練に市の職員がほとんど出てこなかった。市の職員が率先してやっていくのが必要だと思います。

支所長                    総合防災訓練では、市の職員の出席は確かに少ないですが、市の職員は災害が起った時は、災害対策本部の役割がございまして、災害対策本部で活動すべき事項があり、そのための訓練は日々やっております。したがって、市民の方と同じ訓練での参加者数は少ないですが、一般市民として参加するということだと思いますので、啓発していく必要があると思います。

議長                    この問題も震災から1年が経ち、忘れてはいけないと言いながら、危機感がどこかでぼやけてきているのではないかと思います。北村委員が言われたように自助だけでなく、共助、公助も支所長の説明を聞くと分かるのですが、そのへんもしっかり準備はしてあるとアナウンスしてもらって安心感があるのかなと思います。いつ来るか分からない準備をするのも疲れます。防災意識の浸透は難しいと思いますが、いつ来てもおかしくないという意識で、皆が考えていかないといけないと思います。ほかに意見はございませんか。

大下委員              災害の意味は分かりますが、具体的にどのようなことをやられてきたのか確認したいのと、避難場所はどこに決めたのか、避難場所に対して小、中学校、幼稚園を含めて、避難訓練はやっていますか。避難訓練を日常からやっていて、いざという時はこの地域の人はこの避難場所にこのような形で避難しましょうと、実際に訓練を1週間に2回とか、1か月に2回とか、学校の授業の中でやっていますか、とい

うことを確認したいと思います。

支所長 災害には大きく分けて、地震と台風などによる風水害とがあり、それぞれの災害に応じた対策を講じております。それに必要な備蓄品等も避難者数に応じて用意しております。市の職員をまず避難所に配備して、避難所の受け入れ態勢を備えているというようなことをございます。しかし、大きな災害を想定いたしますと、市の職員だけでは到底足りません。したがって、避難所を運営するための市民の方の組織が重要となってまいります。今、各避難所の中で避難所運営的な組織を立ち上げるべく、各地域の自主防災会にお願いをして、そういう動きを順次やってきているというような状況です。

また、避難訓練ですが、生徒、児童につきましては、学校の方でやっていると思いますし、地域の避難訓練も自主防災会を中心にやっていただいております。しかし、市民の方の意識の差もございまして、何も手を付けていない地域も確かにございまして、その辺はこれからも啓発をして、市の職員と一緒に避難訓練をやっていくという事が必要となってくると思います。

議長 ありがとうございます。他にありませんか。

中西委員 大下委員の御発言で、意見というわけではありませんが、私どもの栗葉地区で、1月29日に避難訓練に取り組んだ実態の話をございいただきたいと思ひます。まず、「自助、共助、公助」というのは、3分、3時間、3日だと思ひます。3分というのは自分で自分の命を守ることです。3時間というのは隣近所が地域ぐるみで、けがをしないよう、命を守ること、3日というのがおそらくは、行政機関が公助で援助なり救助なりをすることだと言われております。一番大切なのは、3分で自分で自分の命を守ること、その次に大事なのはそれぞれの地域で3時間どう持ちこたえるのかどうかです。先般1月29日に栗葉小学校の講堂で、避難をした際の避難所の設置、運営、これらについて、当地区は16の自治会がございますが、1自治会5人から10人の地域のリーダー的な役割、言い換えれば自主防災会の役員の方々にお集まりをいただき、実際に避難所を設置して自家発電機を使って、簡易トイレを作るといった訓練を行いました。このようなことを積み重ねていく中で、地域社会、お隣近所がそれぞれ助け合っていないといけないという話が随所に聞こえてまいりましたので、これは地道な積み上げというか、1週間に1回という訳にはいきませんが、その時期その時期の訓練、機会に参加をするということが大事ではなからうかと、訓練をやりながら感じたところをございます。

議長 中西委員がおっしゃった訓練への参加が本当に大事なことでないでしょうか。従来、訓練というと形式だけの訓練になりやすいのですが、実効ある訓練というのが、これからは大事ではないでしょうか。

他に事項1のことについて、防災について、御意見はございせんか。

意見なし

## 2 地域かがやきプログラムのあり方について

議長 それでは、事項2「地域かがやきプログラムのあり方について」に移りたいと思

います。その前に資料1と資料2について事務局から説明をお願いします。

地域振興課長 事項2の御審議をお願いします前にお手元の資料1と2について、簡単に御説明をさせていただきたいと思います。地域かがやきプログラムのあり方について、御審議を賜ります参考ということで、現在開会中でございます市議会3月定例会で上程されております平成24年度の予算案に関わる資料から抜粋したものを用意させていただきました。来年度予算案の概要並びに地域かがやきプログラムの東部及び中部エリアの概要について、御説明をさせていただきます。

資料1をご覧いただきたいと思います。「予算編成における3つのポイント」ということで、24年度の予算案につきまして、簡単にまとめをさせていただきましたものがこちらでございます。ポイント①といたしまして、「津市としての行政課題に的確に対応する予算」ということで、津市総合計画の着実な推進ということでございます。総合計画につきましては、これまでの御審議の中でもさまざまな御意見をいただいておりますけれども、平成24年度が前期基本計画の5年間の最終年度でございます。前期に位置付けた事業の一定の仕上げの時期になってまいります。24年度当初予算案につきましては、23年度当初予算は市長選の関係で6月補正後の予算が1千8億8千万円でしたが、0.6パーセント減の1千2億3千万円の規模でございます。資料の6ページをご覧いただきたいと思いますが、円グラフで歳入、歳出を示させていただいております。歳入につきましては、自主財源が半分強ということで、合計で5百15億6千6百万円です。その反対側の依存財源ということで、4百86億6千5百万円ということで、全体額といたしましては、1千2億3千百万円でございます。次に歳出でございますが、義務的経費であります人件費、扶助費、公債費というのが全体の半分強を占めております。それが全部で5百15億1千万円です。あと、投資的経費、その他経費ということになります。投資的経費につきましては、全体の約1割で百億円余りを確保させていただいたところでございます。戻っていただきまして、1ページをご覧いただきたいと思います。今申し上げました予算の減の要因といたしましては、義務的経費の人件費、公債費及び子ども手当制度が昨年10月に制度改正がございまして、支給要件の変更がございました関係で、扶助費の減ということになっておりますが、実質的には、防災対策や救急医療対策、高齢者福祉や障がい福祉への対応、子育ての推進や教育環境の整備、さらに4つの重点プロジェクトということで、総合計画を基に進めさせていただいた屋内総合スポーツ施設、あるいは、新斎場、新最終処分場・リサイクルセンターの整備、それと災害で被害を受けました名松線の復旧事業の4つの重点的なプロジェクトなど、市民のくらしの充実に向けた公共事業への取組ということで、総額としては、若干の減少に留まったところでございます。下の方の箇条書きの部分につきましては、今説明をさせていただきました減となる主な予算、それと増となる予算の主なものを箇条で挙げさせていただいておりますが、防災対策でありますとか、消防力の強化、救急医療対策、高齢者福祉への対応などが増額対応とさせていただいております。

また、次の段落の後半でございますが、投資的経費につきましては、100億円の

規模を確保ということで、将来を見据えたまちづくりの推進といたしまして、総合計画の着実な推進を図るための予算とさせていただきます。

ポイント②といたしましては、昨年の市長公約ということで、3つの柱がございました。「市民の命を守る」「市民の心をつなぐ」「市民の暮らしを創る」という3つの政策の柱に沿って、予算の项目的なものを再整させていただいたものが、2ページと3ページにございますので、また、ご覧いただきたいと思います。中でも「市民の命を守る」取組みといたしましては、「防災対策の更なる強化」とか、「消防力の強化」、「救急医療対策の充実」ということを挙げさせていただいております。5ページを見ていただきますと、総額の予算が、1千2億3千万円ということで、特別会計、企業会計で、内訳は各会計別予算の状況の区分欄をご覧いただきたいと思いますが、合わせますと2千2百7億9千万円となっております。

次に、地域かがやきプログラムの状況でございますが、7ページをご覧いただきたいと思います。各エリアの予算額を提示させていただいております。地域かがやきプログラムにつきましては、上の枠にもありますように、それぞれの地域の特性や資源を活かし、個性が輝く地域づくりの推進とエリア間の役割分担を明確にして、お互いに補完しながら全体としてバランスの取れた地域づくりを進めるということが内容でございます。総合計画の基本構想の中から文言を抜粋させていただいております。当地域に関係する部分といたしましては、東部エリアにおいては全体で3千6百83万5千円、中部エリア2千5百66万円の予算となっております。細かい内訳は、8ページ9ページをご覧いただきたいと思います。各エリアが縦軸に表になっておりますが、番号の所に丸印をふらせていただいたのが当地域の該当事業でございます。東部エリアといたしましては、⑤番「津市民大学 雑学人づくり塾事業」、⑩番「久居まつり事業」、⑪番「サマーフェスティンひさい事業」、⑬番「鉄道で巡るおもてなしルート設定事業」でございます。次は9ページになりますが、中部エリアになりますが、①番「活力ある温泉ゾーン形成事業」、④番「榊原温泉マラソン大会事業」、⑦番「榊原温泉ふれあい朝市事業」、⑨番「榊原温泉ふれあいの郷イベント事業」、⑩番「久居地域づくり活動支援事業」でございます。詳細の構成費ということで、資料2を引き続きご覧いただきたいと思います。東部エリアの該当地域の予算額といたしましては、1千8百65万9千円、中部エリアといたしましては、9百20万円で、合計が2千7百85万9千円でございます。少し昨年と変わりましたのは、榊原温泉マラソン大会事業の23年度決算で3百万円となっておりますが、当初は2百50万円のところを、久居まつりの春まつりが中止になったことから、年度途中に増額し、3百万ということで執行させていただきました。それが、24年度当初から3百万円で認められたという部分、それと、中部エリアの5番目の活力ある温泉ゾーン形成事業で、これにつきましては、計上の仕方が以前は湯の瀬フラワーガーデン整備事業と花街道景観整備事業ということで、内訳としては1百50万円と50万円で、エリア予算といたしましては活力ある温泉ゾーン形成の1本で予算計上されているのが前年度と違う部分でございます。なお、マラソン大会が50万円増ということになりましたが、久居まつりにつきましても前年度と同額の予算規模となっております。全体ではその部分が増額となったような内容

となっております。簡単でございますが、以上が予算案の概要でございます。

次に、本日お配りした参考資料でございますが、前回御審議いただいたアンケート調査の内容がこのようなものであるという言葉だけの説明でございましたので、中身を御参考に見ていただきたいと思います。アンケート調査につきましては、合併直前にもアンケートを実施しておりまして、その内容と基本的には共通した設問設定となっております。前回から5年間を経て意識がどのように変わったかということが見られるアンケートにさせていただいております。予算の説明については以上でございます。よろしく願いいたします。

議長

ありがとうございました。それでは、2番目の「地域かがやきプログラムのあり方について」ということで、委員の皆さまには事前に「意見発表シート」で一つは「地域かがやきプログラムのあり方についてどう思うか？」と2年の任期で今回で任期が切れるわけで、「2年間やってきて、次期地域審議会委員にこれだけは伝えたい、言っておきたいこと」の二つの設問を事前にお知らせしたわけですが、これにこだわらずに各委員の皆さま順番に少し思いをおっしゃっていただきたいと思えます。まず、井面委員からお願いします。

井面委員

昨年3月の東日本大震災によって、地域かがやきプログラムの計画がぐんと変わってきました。震災に向けての取組みが多くなり、近い将来3連動地震が来るのは間違いないと言えますから、こちらに向けても検討していきたいと思っております。

2年間審議してまいりまして、努力することによって、榊原温泉マラソンの参加者も増えましたし、委員になることによって全ての事業に関心を持ち、参加して意見が言えるようになったと思えます。これからもいろんな方々に参加を呼び掛けていきたいと思えます。

大下委員

地域かがやきプログラムと簡単に言いますが、具体的にどうすることが、かがやきプログラムになるのですか。言葉の綾が間違つたらえ方をしているのか、何をすると地域かがやきプログラムになるのか、中身が非常に分かりにくいから、輝く輝くと書いてあるが、何を以て輝くのか僕は理解できない。もっと具体的に現在がこうだから、これをこうすることによって、そのことが輝くことに結びつくといった具体例があるといいなと思えます。

川合委員

二つの視点からで、まず、一つは、地域かがやきプログラムについてで、引き続いて何を特にお願ひしたいかということをもまず述べたいと思えます。昨年の中見直しで、意見書を提言させていただきましたが、一言で言えばそれに尽きると思えます。それが風化しないように是非次につないでいってほしいと思えます。そこには、新規事業として駅前活性化と、榊原温泉郷周辺の環境整備を含めてそれを一つの大きな目玉にして、進んでいくという二つの事業を提案しております。この2点を是非次の2年間の大事な次期になりますので、具体的に実現をしていただきたいということが1点であります。そして、意見書の中の3番目と4番目でしたか、

今後の地域かがやきプログラムについての考え方ということで、いろいろ提言をさせていただいておりますので、それを取りも直さず実行していただきたいということでございます。2年前の委員になった当初から思っているし、発言もしてまいりましたが、地域かがやきプログラムは、大下委員もおっしゃいましたが、どう考えても未だに分からないということで、合併時の経過措置的な色彩が強い地域プログラムが選定されているということで、必ずしも地域プログラムの概念があってやられているとは思えません。10か市町村が合併して、各地域で地域の特性を活かして施策が展開されております。それがすなわち地域かがやきプログラムなのです。それとは別に特別枠を設けて予算を確保して一元的な予算編成ではないと思います。そういう意味合いでは効率が悪いと考えております。そういうことで、10年一途のごとくローリングされて、10年経っても全部残っているということのないように後期基本計画ではサンセット方式を導入して、やっぱりこれは替えようというものは替えていってほしいと思います。そういうような感想だけ申し上げておきます。

川原田委員 送っていただいた資料の中に「第4回審議会における発言要旨のまとめ」があり、読ませていただきますと、地域かがやきプログラムのあり方についてどう思うかという課題に対しまして、今、川合委員がおっしゃられましたように、地域のかがやきという意味が分からないとか、また、地域審議会の審議のあり方についてもベテランの方がいろいろ疑問を持ってられるということでございますので、後期の地域審議会の中では、こういうことに焦点を当てて、どうしたら良いのかと、かなり勉強してないといけない。私は途中から参加をさせていただきましたので、全く勉強不足で、ちゃんとした発言もできなかった。よほどいろいろなことを経験された方とか、職業柄そういう職についておられた方でないと、地域審議会できちんと発言できないと思います。その辺のあり方も問題があると思います。その中で地域かがやきプログラムをどうしていくかと、こういう何か研修会か、勉強会をしてもらい、次年度から2年間を担当する委員さんは勉強してもらうことをお願いしたいと思います。私は約半年間参加させていただきましたが、こういうまとまった御意見が出てくるとは、予想だにしなかったものですから、一応発言をさせていただきました。

北村委員 基本的に目標というか、目的は何か、何をやれば良いのか、それが無いからどうしようもない。あとは、榊原を活性化しようと言ってもあまりにも大きすぎて、また、地元の人はどうなのという面も含めて、目的が無いとなかなかできない。目的があってプラン計画があって行動して、チェックして・・・でないと活性化しない。ただ言うだけと、計画だけというイメージで、現在私らはほとんど意味がなかったと思います。ただ、防災については、皆さん非常に身近な問題ですので、一定の成果があったと思います。それから、久居駅東と駅前の活性化を第1の目標にしないといけないと思います。若年層の発想というものが必要である。我々のような年寄りがやってもしょうがないと思います。



久保委員 今日資料の9ページの中中部エリアの2番、3番これは一志か白山のことだと思うのですが、榊原の予算よりたくさん付いていて、どのような事業をされているのか、今後のために教えていただきたいというのが1点、2点目は川合委員も言われましたが、22年1月17日に会長から市長への意見を述べられたことについて、どのようにここまで流れてきているのか、私も勉強していませんが、これが1番大事なように思われますので、今後の流れも教えてもらい、継続していただきたいと思います。3点目は、皆さんのお陰で榊原温泉は、4月から温泉郷おもてなし館がオープンに向けて努力していただいております。今後皆様の御意見をお聞きして、よりよい運営をして、榊原の発展の一助になればと思っております。4点目、次に言いたいことと申しますと、自分のできることを積極的に考えて、意見を言い、できるだけ助けてもらい、自分でどれだけできるか努力していただきたいと思っております。次の皆さんも頑張ってください。これで終わりですが、ありがとうございました。

小瀬古委員 第4回の審議会には公務のために欠席をさせていただきましたので、要旨のまとめを送っていただき、これを川原田委員も言われましたが、がっかりしました。というのは、エリアによってそれぞれの事業を掲げてかがやきプログラムとして年間協議をしてきました。特に中部エリアにおいては、地域の活性化を目標に地域住民のやる気と、行政の指導力によって実施をしてきたと思っております。いずれの事業も地域住民の底力が求められるものであり、リーダー的な人がいない、活性化ができないというような評価が掲げられていますが、学校教育修了後に社会に貢献する機会、よほどの条件が整わないと無理でありまして、誰もができることではありません。特に人づくりのことですが、市民大学、雑学人づくり塾ということで、85万円の予算を計上されておりますが、その雑学人づくり塾事業の教育よりもその後の方法が肝要であると常に思っております。事業を計画し、具体的な実践に参画可能な人を見つけることであると思っております。ボランティア精神の豊富な人、前向き姿勢の人を地域に育てることが、地域と行政の大きな課題であると思っております。私は、何度も言うようですが、地域にリーダー的な存在が無いか、人づくりを怠っているとかといったイメージがあるかもしれませんが、そういったところはボランティア精神の底力から芽生えて、そういったリーダー的な人づくりというものが誕生できるのではないかと考えております。

それから、2年間やってきて次の委員さんに伝えたいことは、自分の地域のプランを協議する時は、成果をみるべく懸命に検討いたしますが、該当しないエリアの委員は、事業仕分け的な考えであると私は感じました。また、審議会の本来のあり方より、行政を追及する傾向が強いというように思いました。共に知恵を出し合って協議することの審議会でありたいというように、次の方に求めたいと思っております。それから、委員は全員、地区内のことを知りつくしていることはないと思っております。地域の事情また、伝統的なことを守っていかなければならない部分もありますし、審議会で協議した方法を強要することには疑問がありまして、関係者を招致し、この資料の「あり方について」に載っておりますが、その方を招いて、そして聞か

せて、そして持ち帰らせて、そういったことをしないと伝わらないと書かれておりますが、そういったことの方があってはならないと私は思いました。

柴田委員 2年間ありがとうございました。地域審議会ということすら知らなくて、飛び込ませていただきました。その2年間の結果、いろいろな事業を審議しているのだということも分かりました。私たちもいろいろな事業をやってみえることは知っていましたが、足を運ぶことはほとんどしなかった。でもこの2年間で、事業をしていただいている苦労を実感させていただきました。市民大学雑学人づくり塾事業が、こういうことをやっていることを知らなくて、このことを分からせていただきました。2月29日にこの人たちの活動の場はないかと、市民課の方に相談させていただきましたら、稲葉公民館の雑学人づくり塾の地域の民話の紙芝居を紹介してもらい、お願いをしました。皆さんに喜んでいただき、どのようなところから仕入れてきたのかと聞かれ、また紹介をしてほしいと地域の方から言われました。ですから、私は、この場に参加させていただいたことによって、こういうことができたのだと感謝しています。

津山委員 私も2年間あまり意見も言わずに申し訳なく思っております。地域かがやきプログラムのあり方について、何か新しいプログラム事業があったらと考えたのですが、今の地域かがやきプログラムの事業を無くさないように地域で地道な活動を続けているところは、宣伝にも力を入れていただいて、続けていただけたらいいと思います。特にイベントに関しては、運営支援に若い学生のボランティアに呼びかけ、出してもらったら良いと思います。マラソン大会の受付で少しお手伝いをしてもらったのですが、大変助かりました。学生のボランティアに自主的に参加をしてもらい、まちづくり体験を通して、新しいかがやきプログラムも若い人達の力を借りながら生れるのではないかなと感じました。

それと、自主防災について、私たち委員も各地域を歩いてみて、いろんなことを自治会の活動の中へ声を大にして呼び掛けてほしいということと、避難場所の点検です。私は桃園地域で、避難場所の桃園小学校は低い所にありますので、地域に住んでみえる方が、点検をして、見たり、聞いたり、行ってみたりして、もっと検討していかなければいけないと思います。それと久居駅周辺の事もお話がありましたが、前の道路も良くなりましたので、周辺について力を入れていただきたいと思っております。

中西委員 まず、プログラムのあり方について、津市の行政区域は、10か市町村が合併したということで、非常に県内でも広い区域であるために、それぞれの地区別に地域審議会が設置され、それぞれの地域が抱えておる課題解決のために、いろいろなアイデアを出し合って議論をして知恵を出していくという手法は、私は各地域の振興なり、活性化なりにつなげていくということで、大変大事なかなと思っております。

しかし、それぞれの審議会でも議論されていることは、どうしたらいいだろうと手法を議論されているだけで、津市の条例計画である総合計画に対して、目的とか方

向性に合っているのか、どうなのかというところまでは至っていないのかなと感じます。これは別途、総合計画審議会で、もう少し大局的な観点からみていただいていると思いますが、地域での議論をした結果がどのように反映されたのか、改善されたのか、来年度の予算を送っていただいで見せていただいたのですが、23年度と比較して遜色ないような形でございますので、手法的には同等のことをやっていけば良いのだと思いますが、さわさりながら、予算を掛けるのであれば、それだけの成果は求められるのではないかと思います。それで、他地区でも同じような課題があるのではないかと感じております。それぞれの地域特性を加味しながら、お互いに情報共有しながら改善していくという手法、これも必要ではないかと感じております。

それと、もうひとつ不思議だったのは、事業の評価ですが、昨年10月、12月に22年度の評価をするということは、どうしても納得ができないと思うのですが、終わった事業を評価することは大切なことですが、少なくとも評価の時期が少しずれているのではないかと、評価をすれば、翌年度、翌々年度になるかもしれませんが、そのへんをきちんと反映をさせていく前提で評価をすることが必要ではないかと思っております。審議会として、議論する時間的な制約もございますので、どこまで議論できるのかという疑問とか不安もございますが、是非とも後期の計画の中ではタイムリーな時期での評価をやっていただいで、次年度以降の事業実施に役立たせていただきたいと考えております。

それから、次期審議会委員に伝えたいことですが、総合計画の一部を抜き出しての議論になりますので、時間的な制約がある中での全体像での把握が非常に無理だと思いますが、地域審議会で議論されたということだけでは問題解決にはならないと思っておりますので、ここで議論した結果がどういう形で総合計画に反映されたのか、あるいは反映されつつあるのか、といったことが検証できる機会をそれぞれの審議会でもつ必要があるのではないかと感じました。

議長

私の方からも一つこの項目についての意見を述べさせていただきます。地域かがやきプログラムのあり方についてどう思うかについて、川合委員がおっしゃったように、昨年1月11日にはいろいろ議論をして意見書を作りました。全てあれに尽きるのかなと思います。あの中でいろいろ提言させてもらっているわけですが、次期委員の方も是非意見書をじっくり読みこんでいただきたいと思っております。そこで述べられているのは、地域の活性化を目指すために交流人口を増やすと、東部エリアについては久居駅周辺活性化事業を既存の事業に付け加えて施策の中に位置付けるべきだという提言です。中部エリアについては、白山・一志地域との連携も兼ねて、青山高原榊原温泉郷周辺整備事業を構築して、まちづくり戦略プログラムにきちんと位置付けてほしいということが各委員の皆様のお考えだと思いますので、是非この計画を位置付けてほしいと思います。あと、地域かがやきプログラムのあり方ですが、何が地域かがやきプログラムなのかということもありますが、そこらへんもこの意見書の中で、地域かがやきプログラムの事業実施において留意すべき点とか、今後の地域かがやきプログラムに対する提案とかも述べておりますので、これにつ

きるのかなと思います。地域審議会の役割というのは、私も2年に会長を仰せ使ったわけですが、この計画書を読んでいたのですが、結局ここで書かれているのは、市長からの諮問に対して審議会からどう答えを出すかというのが、22年度前期基本計画の中間見直しをするに当たり地域審議会の意見を聞きたいということで、いろいろ議論をし、意見書を出したということです。23年度、今年度は市長さんの方から諮問は無かった。市長の交代もありましたので、諮問はありませんでしたが、地域審議会独自で重要な議題であれば、逆に意見として市長に出せるということで、「防災について」を昨年は議論をして、意見書を出して、今回意見書の回答をいただいたわけですので、今回一様の役割を果たせたのかなと思うのですが、今振り返って考えてみますと、評価も1年遅れの評価で、評価をして、次年度最初の事業を始めるにあたって、どの様な考えでやられるのかというようなことをお聞きしたいです。事業の評価、進行管理をここに一任されるのであれば、そのへんはどうですか。年間5回という制約とかいろいろなことがあり難しいとは思いますが、今までどおりの評価の基準の曖昧さというものも前回各委員の皆様からの指摘がありましたが、評価の時期とか評価のやり方のあんばいもあるでしょうし、結局、合併前の各市町村の地域のいろいろの事業を引き続けているのかなという気がします。やはり、そうなってくると合併して6年経っているのですが、一体合併の目的は何だったのかと、今どこまでいっているのかと、本当に合併して良かったのかと、今までの行政単位ではやっていけないということでしたのでしょし、銀行も農協も合併して、地域に対するサービスが低下するのは否めないと思いますが、その辺何か工夫はないのかなと思います。効率化ということで、市の職員も後期基本計画を終わる時には2千5百人体制とか、人が減りサービスが低下するのが合併だったのかと、何か割り切れない感じがします。合併したから10年間は地域審議会を置くのだと、平成18年から10年間置き、前期基本計画と後期基本計画との年度の整合性は書いてないとか、後期基本計画が終わらないうちに地域審議会が終わってしまいます。そうすると、後期基本計画は残っているのに地域の意見の反映はどうなるのかというようないろいろな疑問があるのですが、ここで出された意見を尊重してほしいし、反映してほしいと、それがどのように分かるのか、それを返してもらわないと言いつばなしになるので、そういう会議で終わってしまうのが一番懸念するところです。是非、次期地域審議会委員の方も中間見直しの意見書をよく読んでいただいて、提案している2つの事業、久居駅周辺の活性化事業と榊原温泉郷周辺の整備事業を次期基本計画に位置付けてほしい。ただ心配しているのは、それに時間的な余裕がないということです。今年少しは余裕があつて、諮問があつて、多少意見が言えるかなと思ったのですが、25年度から後期が始まりますから、24年度に入ったらすぐにでも始めないとなかなか難しいと思います。私の意見はそういうことでございますが、ほかに何か言い足りなかったとかはありませんか。

北村委員 来年の予算の中に、東口、久居駅周辺の予算はどこに入っているのですか。

支所長 久居駅東口の開発の予算は入っておりません。皆さんご存じのように、方向性が

定まっております。市が計画した内容と地元の方々との意見の相違がございますので、今まだその調整をやっている段階ですので、予算を盛れる状態ではないということです。

議長           ほかにいかがでしょうか。

久保委員       先ほど言わせていただいた9ページの2・3の内容が分かっていたら簡単にお願  
いします。

課長           9ページの2番の「温泉と四季の花」ふれあいの里事業と3番の温泉を活用した  
健康づくり&ふれあいづくり事業でございますが、2番は一志地域の事業でござい  
ます。とことめの里一志の周辺で休耕田を利用してコスモスとかヒマワリの栽培を  
して景観づくりをする取組と、周辺の園路にプランターに花を植えて景観イメージ  
アップに取り組むという事業だと聞いております。湯の瀬の景観と同じような取組  
というような事業でございます。3番目については、白山地域の事業でございま  
して毎年秋に10月か11月だと思いますが、白山ふれあいフェスタという大半がイベ  
ント開催経費でございまして、イベントをすることで交流の拡大ということを目指  
している事業でございます。

議長           よろしいでしょうか。ほかに何かございせんか。

意見なし

議長           我々が気になっているのは、駅東の件ですが、今支所長がおっしゃったように、  
地元の意向もしっかりと汲みとっていただき、進めていただきたいと思えます。特  
に民間施設の方をしっかりとお願いします。それから、庁舎の建て替えとか、ポルタ  
ひさいのマルヤスさんの出た後の問題とか、いろいろ懸案事項はあると思えますが、  
ほかになれば、事務局の方からお願いします。

課長           今頂戴しました意見でございますが、次の委員さんに申し送っていくことが  
ございますので、きちんとした報告書的なものにまとめさせていただいて、次の  
委員さんが決まりまして、第1回目の審議会にでもきちんと報告なり、資料として  
お渡しをさせていただいて、伝えていくということをさせていただきたいと思いま  
す。また、事務局としてもいろいろ反省すべき点や、取組が足りなかった点多々  
ございます。何をしたら地域かがやきになるのかというようなこと、あるいは、何  
をやればという目的、目標が明確でないと進めにくいという御意見もありまして、  
確かにそうであります。約5年間、地域かがやきプログラムというのを位置付けて  
進めてきましたけれども、当初思ったことは、私は合併前に合併協議会には出ずに  
旧久居市に残って仕事を進めさせていただいた。その中で、地域活動振興事業とい  
う発想が出てきて、総合計画ができる以前に、地域で固有の大切な事業で残してい

かなければいけない事業を残していく手法として何があるかというと、新市の予算に振り分けていくというのも一つの方法ですけれども、どこにも入れづらい、どこのカテゴリーにも入れづらい事業を地域活動振興事業という形で残してはどうかという発想で、まつりとか花火とかマラソンとかのイベントものとか、いろいろなものを当初地域活動振興事業として位置づけをさせていただきました。総合計画の時はその地域活動振興事業をベースに、単一の地域の個々の事業ですが、事業を進めていくうちにエリア間の連携とか、全体の大きな交流人口の拡大とかの方向の事業に成長させていってほしいという思いを込めて、総合計画ではそれを再編して位置づけをしたのですが、事務局の努力不足もあって、地域の個々の取組に終始してしまっただ。これは、反省すべき点であると思います。

今後の後期に向けての取組について、担当レベルでは総合計画の取りまとめ機関とも意見交換をしまりました。総合計画の今後の後期基本計画の策定に当たって、地域審議会としてどう進めていきたいか、どうありたいかということも含め、意見交換をさせていただいて、基本構想の記述に沿った内容で、新たな地域かがやきプログラム、地域活性化施策を検討してもらいたいと思います。といった話やら、地域の特性や資源を活かし、地域が活性化するのは基本的な考え方ですので、それを基本に自由な発想で提案をしてほしいというような意見もありました。これは、今のお話にもありました、中間見直しの報告にもありましたように、駅周辺でありますとか、青山・榊原の話を入れていただいていたので、その発展型になってくるのかなと思います。そういう発想で提案を来年度前半になると思いますが、そういうものを地域審議会でも御審議をいただいて、事務局としても計画策定のプロセスの中に持ち込んで、委員さんのことばを代弁するという形できちんと説明をして、努力してまいりたいと思います。提案後の取扱いということで、地域かがやきプログラムに位置付けるか、駅の話でありますとか榊原の話にしても、地域だけで取り組むということではなく、全体的な市の施策という一面もございますので、今の時点では最終形は分かりませんが、各エリアの取組みとして同じような位置付けをしていくのか、又は、ほかの施策体系の中に位置付けていくのかは、総合計画を策定する所管の方で充分検討させていただきます。ということをお知らせさせていただきます。いずれにしても、総合計画の計画策定の側とそれを現場として実施する側とを両方見比べて、いろいろ反省点がありますので地域かがやきプログラムは事業の羅列というのではなしに、もっと大きな目標とか方向をはっきり5年間なら5年間、その先も含めて見据えるような計画に作っていくべきなのかなと、この1年御一緒させていただいて思いましたので、そういう形で取り組んでいきたいと思っております。また、地域審議会の進め方にしましても、早期に委員の皆様と実行委員さんの一部でも意見交換をもらいたいとか、現場を見てもらいたいとか、そういうことをもって評価を早く進めて、評価をベースにして早急に意見が出していただけるような、日程的に厳しい日程になるかもしれませんが、そういうような進め方を考えまして、進めてまいりたいと思っております。残られる方もあるかもしれませんが、今回をもって任期満了となられる方についても、私は個人的にオブザーバーという形で、御意見番のような形で、こちらから相談に行ったら意見を言っていただきたい

と思います。今後ともよろしくお願ひいたします。

なお、地域審議会の次期の委員さんの選任でございますが、今各団体に依頼をして、今週末ぐらいまでに挙げてくださいということでお願いをしているわけですが、2月に公募委員さんの抽選をさせていただきまして、6名応募をいただきまして、最終的にはくじ引きという形になりまして、お名前だけ申し上げます。佐藤ゆかりさん、浜地明子さん、森下隆史さんの3人の方をお願いすることになりましたので御報告させていただきます。いずれも初めて委員をしていただく方でございます。

それで、第1回地域審議会は、委嘱式をしますので、4月13日の午後から委嘱式を本庁でさせていただきまして、その後、早速第1回の審議会もさせていただくという予定で進めさせていただいております。

議長                    ありがとうございます。

北村委員                最後に一つ、久居駅東の件ですが、市の方の状況は変わっていないのですか。

支所長                 駅東の開発につきましては、今、都市計画部の方で、優先交渉権者の事業者の方と協議を進めている状況でございます。それ以上の詳しい状況は私どもには入っておりません。

あと、ポルタひさいの件がございますが、皆様御心配のことと思いますが、これも都市計画部が中心で、新しいテナントを探しておる状況でございますが、マルヤスさんに代わる事業者が入る話はなかなか難しい状況であると聞いております。ただ、マクドナルドさんが入っていた所には新しい飲食店が入るといように聞いております。これはおそらく、4月位には開店されるのではないかと聞いております。したがって、市長も第3セクターとして、ポルタひさいのあり方が一番重要だという発言をされておりますので、ポルタひさいにつきましても行政側も責任の一端の負担を持つということになっておりますので、力を入れてやっていくのかなと思っております。

もう1点、庁舎の件ですが、久居の庁舎につきましては、久居の自治会の方からいろいろ要望をいただいております。防災関係につきましてはの本庁舎の代替機能を備えるということは、そのようにさせていただきます。それから、庁舎を避難所という案につきましては、庁舎は、災害対策本部の久居支部が立ち上がる所でございますので、一般の市民の方と同じ場所であるというのはいさぐわないという考えの基で、それは採用させていただかないという判断をさせていただいております。それから、2階を4階にという案をいただいておりますが、今の段階で今ある久居総合支所の機能を維持するのであれば、2階建てで機能は足りるのではないかと。年末でしたか、市長と自治会の役員の方と話をさせていただいております時に、久居が総合計画で津市の副都市核であるという役割をどうするのかという話の中で、市長の方から、それは政治的な判断になりますので、少し考える時間をくださいというような話があったのですが、そういった特別な役割・機能を久居総合支所に付加するということがない限り、2階を4階にというのは難しい状況だと考えております。

す。

したがって、予算的には昨年度予算を2年間の継続費で7億4千万円位盛らしていただいたのですが、昨年度は実現できませんでしたので、いったんそれを0に流して、改めて同額を新年度予算で盛らせていただいているという状況でございます。

議長                    ありがとうございます。それでは、全体を通して本日の事項以外でも結構ですので、何か御意見があればお願いします。

意見なし

議長                    なければ、本日の事項はこれで終了しました。

最後になりましたが、委員の皆様、執行部の皆様にはお礼を申し上げたいと思います。

2年前に会長職を仰せつかってから、なかなか不慣れな会長で、議事の進め方等にも御不満があったかと思いますが、意見書の提出とか、久居地域の地域防災についての意見も皆様方の御協力のお陰で何とか提出できたということで、この場を借りて、私も任期満了となりましたので、皆様方に御礼申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

それではこれもちまして、第5回久居地区地域審議会を閉会いたします。